

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

〔取り組みの事実〕

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。（実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入）

〔取り組んでいきたい項目〕

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

〔取り組んでいきたい内容〕

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

〔特に力を入れている点・アピールしたい点〕（アウトカム項目の後にある欄です）

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家 族＝家族に限定しています。

運営者＝事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員＝管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム＝管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目（No.1からNo.87）とサービスの成果（アウトカム）の項目（No.88からNo.100）の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム奄美
（ユニット名）	1F
所在地 （県・市町村名）	静岡県沼津市本郷町38-6
記入者名 （管理者）	小松 あつ子
記入日	平成 21年 2月 5 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(☐ 部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	○	新人オリエンテーション時には、理念を噛み砕いて説明する。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	○	運営推進会議のお知らせなどに理念を掲載している。
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	○	校区内中学校との交流により、運動会・文化祭などの行事に招待していただく機会も増えている。また学生の体験学習も受け入れ、良い交流が保てるようになってきた。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	運営推進会議などの際には、介護相談、災害時の施設利用が可能なことを説明している。	○	地域の高齢者を招いてコミュニケーションを図り、介護相談をおこなっていききたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	公的制度を扱うという観点、命を預かっているという観点、集団生活という観点からも外部評価の必要性は非常に高いことを理解し、スタッフへ評価結果の伝達をし必ず検討し、改善に取り組んでいる。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	イベント行事や日常の写真をスライドしながら一つ一つ説明し、GHの暮らしを知ってもらっている。利用者様やご家族・地域の方々のニーズ把握の為、ディスカッションの時間を設け、記録し、検討・改善・実行している。	○	運営推進会議では事故、ヒヤリハットの報告、入退居状況、要介護度の移り変わりも含め、施設内の出来事も報告している。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市で行われる介護事業所・ケアワーカー向けの研修会に参加し、他事業所への見学やその受け入れ、意見交換をするなどして、常に資質の向上に努めている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	実際に利用されている方もいます。外部研修などへの参加で学んでいるスタッフもいる。今後他の職員にも浸透させたい。	○	スタッフへの周知としてミーティング・社内研修などを利用していきたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	言葉かけや身体介護における手の添え方、握り方、異性への気配り、個々の性質を配慮してのケアを学び、常に注意を払っている。	○	ミーティングなどで社会で起きている虐待事例などを伝えて、虐待防止の一層の徹底を図る。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所に至るまでは、面談・見学を重ね、十分な理解がえられるよう話し合っている。相談員・ケアマネ・指導員・市の係員などとも話し合い理解・納得していただいたうえでの契約をはかっている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議においてご意見をいただく時間を設け、ポストの設置によりいつでも意見できる環境を作り、それにより検討・改善に努められるよう反映させている。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月のお便りで、ひと月の生活模様を、写真添付でお知らせしている。また、面会時に近況報告を行っている。必要時、特変時には直ちに電話報告を行っている。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約書に苦情相談窓口を記載している。意見箱を設置するとともに、運営推進会議でもご意見を述べていただく機会を設けている。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員からの意見等がある場合には、管理者ミーティング(月1回)等を通じて会社側へ伝えるようにしている。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	シフトを作成する前に必ず意見交換し、従業員の要望を聞き入れるかたちをとっている。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ユニット化により、スタッフは固定されている。ご利用者様に影響しないように努め、人員確保できない場合でも、社内別事業所からスタッフを派遣するなどしている。離職者になるべく出ないように、勤務形態、面談による個々のスタッフの状況把握に努めるようにしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内の研修委員会に内容に応じて、新人から管理者まで受講させ、資質の向上を図っている。	○	受講したい研修内容のアンケートを取り、意見集約により社内研修を実施している。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市で行われる研修会や、他事業所への現場見学、包括支援センターの会議への参加などを通じて、意見交換し、資質の向上に努めている。	○	同グループ内での見学や、社内研修で学ぶ機会、意見交換、情報交換ができています。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	喫煙を望む方には施設外に喫煙所を設けてストレスの緩和に利用している。その他、表情や態度から伺える精神状態に目をむけ、話をする機会を設けたり、食事会などをもってその軽減につとめるように心がけている。		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	スタッフの努力実績については管理者から運営者に報告し、把握できる状況にある。年2回会社より個人評価表をもとに評価が行われている。	○	スタッフの実績を運営者へ伝えるための面談の機会を設け、伝えて生きたい。
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居に至るまでの、その方の経緯、性質、おおまかな人生暦などをお聞かせいただき、ニーズを聞き出す機会をもうけ、記録したのちにプランをたてている。希望には可能な限り早急に答えることが出来るよう援助している。	○	センター方式を取り入れ担当者・リーダー・管理者で本人の思いを聞き出して記入しサービスに取り入れている。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	施設の理解については見学や体験などしていただききホームの主旨、ハード面などみていただいたうえで面談をし、御家族の思いを受け止め、意向もうかがうようにしている。入居後も面会・電話などでご家族と話しの機会を多くし不安の軽減に努めている。	○	ご家族とは、施設利用に伴う不安・疑問がないように時間をかけて話を聞くように心がけている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人の状態から思案し、ご家族からの要望などから必要としている支援を見極め、当グループホームが適切であるか、他のサービス利用が適切か話をさせていただき運営者とも相談している。		相談受付用紙に記入し会社に報告。上司・ケアマネジャーとも検討していく。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	面談をはじめ、話す機会を数多く設け、ご利用前に見学していただき、ご本人様のみ体験していただくなどしている。生活環境の変化を最小限に抑える為、なじみの物の持ち込み、自宅の自室のような部屋作りをしていただいている。生活習慣を継続していただけるよう援助を心がけている。	○	センター方式を取り入れ長年の馴染みの生活をスタッフが事前に把握する。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	施設ではなく、住まいであるということを念頭において生活していただけるようにしている。共感しあえる環境作りのため、家事等はすべて一緒におこなっている。スタッフに教える場面などあり、人生の先輩から頂く生活の工夫・知恵などがあり、生活を一緒に支えあえる関係作りをしている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	お便りに写真を添付して、日々の生活とご様子を把握していただく。また利用者の日常の状況を面会時・電話連絡等で報告してご家族に伝えている。また家族会や行事に参加していただくことで、他のご家族や利用者との会話が弾んでいる様子が見られます。。	○	ご利用者のご家族に対する思いなどもそのつど伝えていくことで施設に協力的になられてきている。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	入居時面談により、ご家族との関係を会話の中からの情報で聞き知りえることもある。認知症という病気を抱え家庭での介護のストレスがなくなることで、入居により良い関係が保てるようになるケースもある。イベント時(誕生日など)では、ご本人様の希望はもちろん、ご家族に連絡をとり、ご一緒に過ごされるように配慮している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	手紙のやりとり、電話連絡のやりとりは入所以前と変わらないようにしていただくよう努めている。希望を聞き入れたうえでドライブがてら訪問したりと、絆を保てるように努めている。バースディ企画などでは本人の希望を聞き自宅・前施設訪問するなどの企画をたてている。全て個別の対応1:1で対応している。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者個人の性格や癖、趣味や習慣などそれぞれ把握し、相性の良し悪しを考慮したり、知的・運動的能力の相乗効果が得られるような空間づくりを試みたりしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	現在のところ継続的な関わりを必要とするケースはありませんでした。ご家族から連絡をいただいた場合などは退去後の様子を聞くようにしています。	○	今後必要なケースが出てきた場合は取り組みをしていくつもりです。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプランの実施に加えて、日々の生活から生じるニーズについては、日誌や個人記録からスタッフ間で検討し、統一ケアへとつなげている。暮らしの中で自然に聞き出すよう努力している。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を利用し把握に努めている。入居前のサービス事業所からの情報提供をしてもらっている。	○	入居後も利用者との会話、家族との会話により情報を引き出し、共有につとめている。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	朝、夕日々の申し送り、また、申し送りノートの活用、ワーカー日誌、看護日誌、フロアー会議等での情報把握に努めている。	○	申し送り内容確認後必ずサインをしている。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケアマネージャーによる本人、家族の意向を聞いた上で、のケアプラン作成。担当者、介護者、医者、看護師との連携により介護計画を作成している。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	行っている。カンファレンス時の検討や、家族への相談、状況報告を状況変化により、介護計画のみならず、日常のケアに変化に応じて対応している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護記録へ記入している。ケアプランの内容が実践につながるように、ケアプラン実施の記入は色を変え個人記録に記入するようにしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	行っている。基本的に病院受診は家族対応をお願いしているが家族や本人の状況に応じ施設側で対応することも行っている。	○	
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	防災訓練の実施。文化センター・図書館の利用。行事の時のボランティアの参加。園児との交流を試みている。	○	回覧板を使って、ボランティアの参加を募っている。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	中学校との交流により、中学生の体験ボランティア、行事への招待などしていただいている。防災訓練では、消防署に協力を求め指導を受けている。	○	民生委員からのボランティアの紹介などの活用を行っている。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現在のところ他のサービスを必要とする対象者がいないので行っていない。	○	今後必要なケースが出てきた場合は取り組みをしていくつもりです。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけの医療機関の確認をするとともに、ホームの関連医療機関の紹介をし、本人、家族に説明している。また、歯科医院の往診を受けている。体調変化時には速やかに看護師、家族に伝達し医療機関につなげていくよう支援している。	○	月に1度内科、整形外科の医師の往診。毎週歯科との連携を取り口腔内の検診、ブラッシング指導を実施。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	病状により専門医を受診されている	○	適切なケアへのアドバイス、薬の変更など相談できている。
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護師の巡回により健康管理を行っている。24時間体制で連絡対応可能	○	訪問時に日々の体調変化を報告。看護師による観察、処置、助言、家族への連絡など行っている。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時訪問し、医師、看護師、ソーシャルワーカーなどから情報提供していただき、病状、メンタル面など考慮し退院に備えている。	○	病院での説明に家族と共に立ち会っている。
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に終末期の看取りについて、ホームで出来ること、出来ないことも含め家族に説明している。書面にて、終末期の意向を記入していただき、状況変化により再記入していただくようにしている。	○	運営推進会議などでも終末期の看取りについて家族に説明する機会を増やしている。ミーティングでもスタッフ間で話し合いの時間を設けている。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	介護スタッフ中心の対応なので、終末期をむかえた方にどこまで出来るか家族には説明している。急変時の対応方法のマニュアルを作成し、緊急時に備えている。	○	本人、家族の意向で終末期をグループホームで迎える希望がある場合は対応していきたい。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	入居前の面談、アセスメントを行うことでなじみの生活が継続できるように話し合う時間を設けている。居室の配置、寝具類などもなじみの物を持ち込んでいただくようにしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1) 一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	丁寧な言葉かけを行う。特に排泄や入浴の声かけは他者に聞こえないよう配慮している。個人情報の書類は専用の棚に収納している。	○	側に寄り添い、言葉かけを行う。個人情報の取り扱いについてミーティングでも伝達指導している。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	毎日のお茶の時間には、飲みたい物を聞き提供している。食事についても苦手な食事は他者と内容を変えて提供することもある。バースデイ企画では本人の希望をかなえる日とし、担当スタッフが個別に利用者の意思を聞き出す場面を作っている。日常の関わりの中でも聞きだす言葉かけをしている。	○	1対1で話をする
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日その時に出た言葉を元に外出・買い物の希望支援が出来るように配慮している。	○	一人ひとりの発した言葉をキャッチするように心がけている。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	希望店への支援、または出張を依頼し支援している	○	美容師の出張
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事づくりの野菜切り、食器拭き、片付け、準備を共に行っている。季節に合わせた食事を提供している。	○	メニュー表の掲示。毎日の生活の中での役割が出来てきている。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	おやつを提供をしている。毎日のお茶の時間には個々の好みの飲み物の(日常的には酒類以外)の提供をしている。酒類については個々の状態に合わせ提供している。外出時などに酒類を召し上がる方もいる。	○	誕生日に本人が欲する好物の希望叶える。酒の提供。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排便・排尿の記録板を用いて、量・色・形状・時間などを記録し排泄パターンの把握に努めている。排泄後には、下用ホットタオルを使用して、清拭している。	○	パット内の汚染がないように個人のパターンを把握し、清潔を保っていただけるように声かけし、誘導している。状態によって水分の強化や繊維質の摂取を強化するなどしている。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	曜日ごとにきめているが、その他にも入浴を希望される方には対応している。	○	自立の方も要支援・要介助の方も必ず見守っている
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	ひとりひとり、その日の状況に応じて入床時間は自由にしていただいている。足浴を提供し、安眠に役立てている。居室の温度に気をくばり、調節している。	○	アロマによる安眠作用を試みているケースもある。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ガーデニング・食事の準備・散歩を提供している。創作活動において、色塗り・紙貼り・折り紙・工作や、裁縫などを一緒におこなっている。ご自分で洗濯される方への支援を行っている。	○	手紙をポストに出しに行き、手紙が届くやり取りを継続し楽しむ方、近所の和菓子屋に出かけ好みの菓子を購入される方など個別の楽しみを継続している。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	大きな買い物は家族の方に購入していただき、個人的な買い物には職員が同行して購入していただくことにしている。金銭管理が可能でない方には立替を提供し、会計をしていただくなどしている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日は散歩・買い物に同行している。誕生日には本人の希望のところへ出かける。入居者の希望で月1～2回外食実行。外での催しの見学・観賞も行っている。	○	本人希望時に職員同行にて外出している。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	初詣・花見・夏祭りへ同行している。ご家族と一緒に一泊で温泉旅行を実施。誕生日には希望の場所へ外出している。	○	自宅への外出、外泊は御家族の協力を頂いている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自由に電話、手紙のやりとりができるように支援を行っている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	いつでも訪問できるように、気軽に居心地良く過ごしていただけるように支援を行っている。またいらしていただけるように、お帰りの際には声をかけている。	○	面会者、利用者の希望にもよるが、各居室にてくつろいでいただけるようご案内している。
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束のない生活援助をしている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関においては、建物の構造上自動ロックがかかってしまうが、外出希望時には開錠している。	○	外出願望の強い利用者があり、ケアの方法を検討しているが、センサー等は安全確保のためとりつけている。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	申し送り時に入居者の様子を確認し、安全・健康に配慮している。移動時の所在確認、スタッフ間の連携をとり所在の把握。夜間は巡回見回りを行っている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	注意の必要な物品は事務所または、管理箱を設け扉のついた収納場所へ保管している。利用者の必要に応じてスタッフ見守りの元、自由に使用していただいている。	○	洗剤なども利用者が使用する際には、スタッフ見守りの中使用していただいている。保管は扉のついた収納庫へ保管したり、戸棚の上など工夫してうる。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒヤリハットがあった場合は、原因を究明し、改善に努めている。救急救命の講習参加や防災訓練など、あらゆる場合を想定し、マニュアルを作成したり、事例の検討などを行っている。	○	火災については消防署の指導や、独自の防災訓練実施により学んでいる。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	応急手当の対応の訓練・講習に参加し、対応できるようにしている。予測される事故などは日々の申し送りでも、対応方法を伝達している。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災訓練を実施している。地域の方には、地域防災訓練への参加や、運営推進会議等で協力をお願いしている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	利用者の状態が変化し、危険が予測されるときなど、その都度、家族に説明をしている。ミーティング時にも対応策を議題に挙げて話し合いをしている。	○	運営推進会議では、施設内で起きているヒヤリハットや、事故報告、リスクマネジメントを伝え、自分の家族に起きている事だけでなく、高齢者、施設内で起こりうるリスクについても説明している。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝のバイタル計測を実施し、日々の関わりの中で観察を行っている。異変時看護師へ報告し、看護師の観察、指示を仰ぐシステムになっている。日誌や、申し送り簿で全スタッフが把握できるようにしている。	○	異変時、リーダー、管理者に報告しバイタル測定観察し、看護師へ相談、指示を仰ぐ。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情報は常に確認できるよう、個人記録ファイルに保存している。また、変更時は申し送りノートなどに変更内容、追加内容、副作用によるリスクも含め記入し把握に努めている。	○	日常生活において状態観察をし、病院受診時には、薬による変化や、状態の報告を行っている。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排便状態を健康記録紙に記入し把握できるようにしている。病気による便秘、水分量、食事内容など検討し、必要に応じ水分チェック表を活用している。散歩や体操、腹部のマッサージなども考慮し、支援している。	○	食物繊維の豊富なものなど野菜を多く食事やおやつで提供しよう心がけている。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	実施している。自力で行える方にもブラッシング後の確認や、仕上げ磨きを実施。毎週の歯科往診により口腔内の清潔を保っている。	○	歯科往診時には注意事項をノートに記入し、全スタッフが口腔状態を把握しケアにあたれるようにしている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立表を作成し、バランスよく食事していただいている。食事摂取量、水分摂取量を記録し、状態に応じて水分摂取量を増やすなどの支援を行っている。	○	食事バランスチェック表の活用。医師との連携により個々の食事、水分摂取量を管理している。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	利用者・職員・訪問者共に手洗いとうがいをしている。食前、外出後には必ずうがい手洗いをしている。手すり・ドアノブには次亜塩素酸を用いて消毒している。	○	朝、夜間1日2回は次亜塩素酸による消毒を実施している。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理器具は消毒してから使用する。調理後2時間経過したものは破棄している。	○	食材には十分な加熱を心がけている。生物は新鮮なものを提供するようにしている。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関先や、庭には季節の花を植えて明るい雰囲気を出すよう心がけている。クリスマスシーズンには大きなリースを飾るなどし、近所の方との会話のきっかけにもなっている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設内で大きな音を出さないよう、職員の行動や声の大きさに配慮している。午後は夜間の睡眠状態をよくするために強い光が入らないようレースのカーテンを引くように配慮している。掲示物や、置物、季節の花を飾るなど工夫をしている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルの配置に工夫して、個々の利用者にとって居心地のいい場所になるよう配慮している。ソファなどは、テーブルから離れた位置にあり、ゆったり過ごすことができる。	○	利用者の人間関係に配慮した座席の配置を工夫している。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時にはご本人のなじみの家具や寝具、置物、飾り物など持ってきていただき、自宅と同じような配置においていただくようにしている。	○	居室内の整理は、本人が混乱しないよう職員と一緒に行うようにしている。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがなくよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	清掃時や日中など窓を開け換気を行っている。季節により外気温、室温の調整をエアコンなど利用し個々の快適な温度で生活できるよう支援している。必要に応じ芳香剤を使用し不快な臭いがないように配慮している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	独身寮を改良した建物の為フローリングや、和室など様々な居室になっているが、個々の状態に応じ居室を決めている。廊下など手すりを付けるなどして安全の工夫をしている。イスの形なども個々の状態により違うタイプのイスを使用している。	○	利用者の状態や変化に応じそのつど手すりを付けたり段差の解消に努めるなどしている。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	清掃、家事など、スタッフが個々のレベルを見極め混乱、失敗のないように支援している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベランダにおいては、柵が無い為プランターに花を植えて危険防止を行い、日光浴や、体操、お茶の時間に活用できるようにしている。花壇や、畑を作り、趣味の継続、収穫の楽しみ、季節の味わいが出来るよう利用している。		

V. サービスの成果に関する項目		
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の
		②利用者の2/3くらいの
		③利用者の1/3くらいの
		④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある
		②数日に1回程度ある
		③たまにある
		④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が
		②利用者の2/3くらいが
		③利用者の1/3くらいが
		④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が
		②利用者の2/3くらいが
		③利用者の1/3くらいが
		④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が
		②利用者の2/3くらいが
		③利用者の1/3くらいが
		④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ①ほぼ全ての利用者が
		②利用者の2/3くらいが
		③利用者の1/3くらいが
		④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が
		②利用者の2/3くらいが
		③利用者の1/3くらいが
		④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○ ①ほぼ全ての家族と
		②家族の2/3くらいと
		③家族の1/3くらいと
		④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
		○	②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての家族等が
		○	②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

午前中は、ほぼ全員で健康維持のために体操をおこなっている。月に1度は必ず季節感を味わう為にも外出レクを行っている。手作業で壁紙作り、折り紙、貼り絵などの創作活動を行っている。利用者の要望でショッピングなどの援助を行っている。